

## アナリスト予想が出そろう、中長期で設備投資関連に注目

(作成者：奥村義弘)

### ○アナリストの業績予想がまとまる

4-9月期の決算が一巡、今・来年度の収益動向を占うアナリスト予想がまとまる時期となった。今回の集計で、9月初旬との比較で環境が変化したと意識されたのが、資源国や新興国の経済減速と、原油安など資源価格の下落。証券系調査機関の企業収益見通しの前提条件でも、為替レートは前回とほぼ変わらなかったが、原油価格が引き下げられた。

### ○若干の減額修正だが好調をキープ

増収率は15年度が1.5-2.2%（前回2.5-3.0%）、16年度1.8-3.4%（同2.6-3.5%）、経常利益増益率は15年度が13.5-14.4%（同15.1-16.8%）、16年度が6.2-9.0%（同6.7-9.9%）。15年度は前回予想の9月時点と比較すると、資源関連企業の一部に評価損や減損の計上があり、下振れた。売上高では米国がけん引役であったが、新興国景気の減速懸念から若干の減額修正。ただし、2桁増益の基調に変化はなく、企業業績は好調をキープした。世界では減益予想の地域も多いが、日本の増益率の高さは突出している。16年度は、1桁後半の増益予想。最高益更新と利益水準は高いが、需要不足から在庫調整の継続などがリスク要因。不確実性は増した印象を受ける。国内では17年4月に消費税の引き上げが控える。駆け込み需要も予想されるが、企業業績の好調→雇用・所得の改善→消費の拡大の好循環が継続するか注目される。

### ○来期は製造業が存在感増す

業種別には、15年度の業績は、内需と外需で明暗が分かれた。中国の景気減速の影響で在庫調整を余儀なくされた鉄鋼や非鉄が減額、新興国需要の減少から電機も減額修正が目立った。一方、原油価格の想定以上の下落で、電力・ガスが増額修正。建設の利益率改善も顕著となった。16年度の業績は、海外需要に対する見方は慎重だが、業績変化率の点では反動増もあり、電機、精密、自動車、化学、鉄鋼など製造業が存在感を増す。一方、電力・ガスは料金引き下げで減益、食品、小売り、建設など収益堅調が継続するが、勢いは鈍化する。

### ○ソニーは攻めの投資で存在感示す

好調な企業業績を受け、豊富なキャッシュフローの活用がテーマとなっている。7-9月期の法人企業統計では設備投資が前年同期比11.2%増となり好材料とされた。下期に向け製造業では、新型車やスマートフォン関連などの投資が広がる。ソニー（6758）が東芝の大分の画像処理用半導体の生産工場を譲り受けるのは象徴的。譲渡対象の設備や画像用半導体の設計などに関わる東芝の社員約1,100人はソニーグループに移籍する見通し。ただ、全体像として国内は増産投資より、製造業では研究開発投資、非製造業では生産性向上のための省力化投資などに力点が置かれよう。

## ○生産性の向上を図る投資に注目

その設備投資に対する関心が高い自動車産業では、政府も力を入れる自動運転の実現に向けた取り組みが注目を集めている。自動車、電機、通信など、業種の垣根を越えた横断的なテーマと言えよう。その他では、介護・サービス分野の生産性を飛躍的に向上させるサービス・ロボット、ビッグデータ解析など応用分野も広い人工知能（AI）などが、中長期で有力な投資分野として注目される。

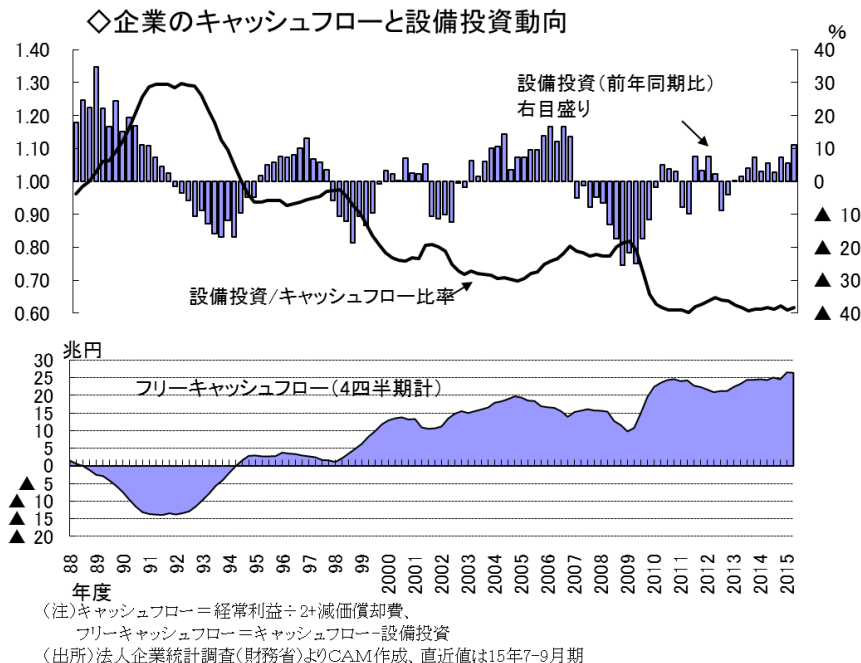
## ◇主要証券各社の企業収益見通し

	野村証券300社				大和証券199社				SMBC日興証券250社(除く金融)				
	14実	15予		16予		15予		16予		15予		16予	
		前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回
売上高	4.6	2.5	1.5	2.9	2.2	2.9	2.2	2.6	1.8	3.0	2.2	3.5	3.4
経常益	7.0	15.1	13.5	8.8	8.0	16.4	13.8	6.7	6.2	16.8	14.4	9.9	9.0
純利益	8.0	18.5	17.3	9.3	8.6	20.9	17.5	7.2	7.3	19.6	17.5	10.7	10.7
円/ドル	110.0	121.1	120.9	121.0	120.0	120.3	120.9	120.0	120.0	120.3	120.9	120.0	120.0
円/ユーロ	138.7	134.1	134.6	134.0	134.0	131.1	132.6	130.0	130.0	134.8	135.0	135.0	135.0
原油	80.5	55.7	51.1	55.0	50.0	52.0	51.0	50.0	50.0	53.5	49.6	57.5	51.3

(注1) 原油価格の前提は、単位がドル/バレルで、野村証券、大和証券はWTI、SMBC日興証券がドバイ原油

(注2) 野村証券の今回は15年8月26日、今回は15年11月25日。大和証券の今回は15年8月25日、今回は15年11月25日。SMBC日興証券の今回は15年9月8日、今回は15年12月1日発表。

(出所) 各社の公表資料を基にCAM作成



## [重要開示事項]

- 本資料は、ちばぎんアセットマネジメント株式会社（以下「CAM」）調査部が投資判断の参考となるよう情報提供のみを目的として作成したもので、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料はCAMが信頼できると考える情報源から得た上記日時現在の各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性についてCAMが保証するものではありません。
- 加えて、本資料に記載されたCAMの意見ならびに予測は、予告なしに変更することがあります。
- 投資に関する決定は、お客様ご自身の判断でお願いいたします。